



ニワトリはどうして飛べないの

人間がつくりあげた鳥だから

およそ5000年前ごろ、インドで、東南アジアのあちこちにいた、野性のニワトリの仲間であるセキショクヤケイやハイイロヤケイを、人間が飼い始めました。これが、今のニワトリのはじまりとされています。

ニワトリは、肉がおいしいし、卵を産んでくれます。羽の色がきれいだったり、おが長いものなどは、ながめて楽しめますし、ペットにもできます。地方によっては、ニワトリどうしを戦わせて楽しむこともあります。このように、ニワトリは、いろいろな目的に役に立っています。人間が、長い時間をかけて、よく卵を産む種類、早く大きくなり、肉がおいしいもの、より美しい羽や長いおをもつ種類と、ニワトリを選び、その特長にあわせて、種類も増やしてきました。今いるさまざまな種類のニワトリは、人間が、このようにして作りあげてきた生き物といえます。

ニワトリは少しなら飛べる

ニワトリの先祖になる、セキショクヤケイは、地上を歩き回ってえさをあさり、夜は木の枝などに飛び上がって、ねていたようで、あまり飛ばない鳥でした。人間に飼われるようになったニワトリは、敵におそわれることはほとんどなく、飛ぶ必要がないし、えさはたっぷりあり、だんだんふとって、今のようにほとんど飛べなくなったのです。

公園などに捨てられたニワトリが野性にかえり、イヌなどにおそわれないよう、夜は木の枝に飛び上がって、ねるようになった例がよくあり、ちょっとしたきよりなら飛べるニワトリが、今でもいます。（監修・今泉 忠明）

